

オーカタンガ州における 保健人材情報管理

JICA の実施する保健人材開発支援プロジェクト（PADRHS2：チーフアドバイザー 田村専門家）の支援を受けて、オーカタンガ州では保健人材データベースの作成がこのほど開始されました。

実は、保健人材開発は日本とコンゴ民主共和国の2国間協力の一つの重要な柱と位置づけられています。

その目指すところは、すなわち保健人材の質の改善しながら、ケアの質が改善されることによって、よりたくさんの方が保健サービスを利用できるようになることです。

そこで、オーカタンガ州での保健人材データベースの作成を支援するため、プロジェクトでは次のような活動を計画しています。

- ① 州データベース作成に必要な情報機材の供与
- ② 州内の保健区レベルの保健人材情報担当者を対象にした、保健人材データベース「GESPERSON」の利用法に関する研修会の実施

- ③ 州内をくまなくまわりながら保健省スタッフの本人確認をし、それら情報をデータベースへ人材登録する活動
- ④ 集められた情報を基にオーカタンガ州保健人材データベースを作成する活動
- ⑤ オーカタンガ州保健人材年鑑などの形で結果をまとめる活動

これらの活動を行うため、プロジェクト専門家は2015年11月20日からルブンバシを訪問し、州保健監督官に対してオーカタンガ州向け情報機材（総額 30,757USD）を引き渡しました。また、今回の機材供与の実施に際しては、コンゴ保健省第1局長であり我々プロジェクトのマネージャーでもある Mr. Ngumbu Epiphane の絶大なる支援をいただきました。

保健人材データベースの作成によって、オーカタンガ州保健人材開発計画の実施や次の計画作りに大きく貢献するものと期待されています。

（石嶋 訳）